

だれ い
誰が言ってる？

2025/9/10

No.47

岩渕和信

3年生、国語。阪田寛夫の詩『夕日がせなかをおしてくる』をみんなで対話しながら味わっています。

「『夕日がせなかをおしてくる』ってどんな感じ？」



「風が押してくるんじゃないのかな」

「風かあ」

「さよなら、って言ってる」「夕日が言ってるの？」「でも1ページ目と2ページ目は違うよ」「え、おんなじだよ」「違う」

ここで先生「そうか、詩はね、かたまりで、第1連、第2連って呼びます」先生は黒板に「第1連」「第2連」と書きました。

「第1連と第2連で、同じところと違うところを色分けして線を引いてくれた人がいます。見せてくれるかな」先生はその子の教科書をみんなに見せました。みんな教科書を読み返します。

「どうでしょう。『さよなら』って言ってるのは誰かなあ」

「はい！」



「はいどうぞ」

「第1連のは、太陽からぼくらに『さよなら』って言っていて、第2連は、ぼくらから太陽に『さよなら』って言ってる」
「なるほど。みんな、どうだろ」

先生が黒板に書くと、みんなもノートに書いていきます。

「そうすると、この最初の『夕日がせなかをおしてくる』ってどんな感じ？」

根拠をもとにして、対話は続きます。

世界は生成するものであり、あなたは世界に参加しているのである。

(鈴木健)